

グローバル知的財産・標準化戦略に関する ケース教材の活用のご案内

無料!

求められる人材

知的財産や国際標準を
事業戦略に活用できる
人材

世界を舞台に
活躍できる
知財人材

人材育成
のための
ケース教材を
提供します

グローバルな知財・標準化
マネジメントを学ぶための
本格的なケース教材です

ケース教材の末尾に、
ケースを利用した研修を行うための
指導ガイドが付いています

特許庁「グローバル知財マネジメント人材育成推進事業」
長編教材 No. 5-1

株式会社グリーンテクノ 21 ～オープン戦略で商流を構築する～¹

【本教材のテーマ】

グリーンテクノ 21 は、卵殻粉を活用したエコ商品でゼロエミッション（廃棄物ゼロを切り口に資源循環型社会の構築）の実現を目指す企業である。ライン材、ロジックパックの製造販売とチョーク・壁紙の原料供給がメイン製品である。研究開発された経営戦略を持つ代表取締役の下浩史氏は、ベンチャー企業としてどのように商流を構築し、ビジネスモデルを展開したのかを注意深く見守りたい。そして、グリーンテクノ 21 のこれからの可能性を探ってきたい。

1 卵の殻でビジネス

起業のきっかけ

ある体験がきっかけになり、株式会社グリーンテクノ 21 の下浩史代表取締役は起業した。当時、内装の仕事をしていた下社長は、トイレ修理のためにカステラ屋の会社に出向いていた。そのおり、トイレの横に置かれていた 300 キロほどもある大量の卵の殻が目が釘付けになってしまった。その卵の殻を手にした瞬間、下社長はその殻に事業の可能性を感じたというのである。

「その卵の殻の処理に莫大なお金がかかる」とカステラ屋の従業員から聞かされた。トイレ修理の仕事が終わった下社長はカステラ屋の許しを得て、卵の殻を持ち帰った。この「ある体験」がそもそものスタートだった。

卵を活用しての起業を思い立ったのは、卵に対する日本人の思い入れの深さにあった。ただ単によいイメージがあるからというだけではない、水、塩、醤油、味噌と同様に、卵が日本人の生活に欠かせない食材であり、日本人の頭の中にしっかりとセットアップされているイメージがあったからだ。たとえば、卵には、「柔らかい」「優しい」「自分の殻を破る」といった言葉が連想される。そして、卵がいちばん優しい気持ちになれる食べ物だと多くの人に思われている。まさに、日本人にとって馴染み深い食材なのである。

¹ 本ケース教材は、法政大学 社会学部 永久正人准教授の監修のもと、有限会社アトミック 岐阜 代表取締役が執筆したものである。本ケース教材はクラス討議の資料として作成されたものであり、経営の適否を問うものではない。本ケース教材の著作権は特許庁に帰属する。特許庁の許可を得ないで本ケース教材の転載、複製、目的外の利用を禁ずる。問い合わせは特許庁総務部企画調査課（電話：03-3592-2911）までご連絡いただきたい。
² 1200 トン/3000 万円と言われている。

【教材指導ガイド】

1. 教材の狙い・目的

本教材では、アイデアひとつのベンチャー企業が、サプライヤーや完成品メーカー、顧客と協調しながら、どのようにビジネスを展開していったのかを学ぶことが狙いである。

下社長の卵殻ビジネスへの参入動機はいたってシンプルである。カステラ屋さんで捨てられていた大量の卵の殻を見て、「何かビジネスができるのではないかな」という、アイデアひとつからであった。卵殻を持ち帰り、それを粉砕すれば、学校などの校庭などで使われるライン材に仕えるのではないかと、卵はエコのイメージがあるので教育現場にはぴったりではないかと発想したのである。

近頃の大手食品メーカーでは、卵殻を大量に廃棄処分していた。調べてみると、こうした卵殻の廃棄コストは数千円に上る。こうした卵殻を引き取って、ライン材として使うために粉砕するには、大手食品メーカーから粉砕工場への物流費がかかかってしまう。一袋あたりの原価は、石灰を原料にしたものは 200 円（販売価格 600 円）であるのに対し、こうした物流費を加味した卵殻原料ライン材は 600 円（販売価格 1800 円）に上る。予算が決まっている学校にとって、いくらエコとはいえ、これだけの価格差を許容することは難しい。そこで、もし食品メーカーの敷地内に粉砕機を置いてもらえば、物流費がかからないために石灰原料のライン材程度の原価で製造することができると試算した。

下社長の最初の挑戦は、卵殻粉砕機をつくることであった。この問題に関しては、幸運なことに、既存の機械をうまく改良することで対応することができた。そして、いざ大手食品メーカーにこの機械を無償で OK なので導入してもらおうと交渉を持ちかけたところ、予想外の結果、うまく行かなかった。下社長の考えでは、数千円程度の廃棄コストがかからないならば、当然、大手食品メーカーもメリットを感じ、卵殻粉砕機を導入してくれるはずだと考えていた。しかし、現実とは違ったのである。大手食品メーカーにとってみれば、すでに産業廃棄物のルートができていたのに、いくら無償で自社のコスト削減につながるという、信用も実績もないベンチャー企業に任せることはできなかった。

ここからが下社長の凄腕の場所である。まず実績をつくるために「赤字覚悟」で、卵殻原料のライン材の売込みを開始したのである。一軒一軒、地域のスポーツ店に電話を掛け、同製品を薦めていった。何千件と交渉するとあるパターンが見えてくる。それは、興味を示すのは地域の 2 番手、3 番手のスポーツ店で、彼らが営業ツールとして使いたい、というニーズであった。1 番手のスポーツ店は、現状で満足しているために、卵殻原料のライン材にあまり興味を示さない。こうした発見は、まさに努力の賜物である。

石灰原料と同程度の価格であれば、卵殻原料のライン材は徐々に売れ始めていった。エコというコンセプトを売りにできるからである。しかし、売れば売ほど、グリーンテクノ 21 にとっては赤字である。こうした赤字を積み重ねても、大手食品メーカーが卵殻粉砕機を導入して

ポイント、活用方法は裏面に!

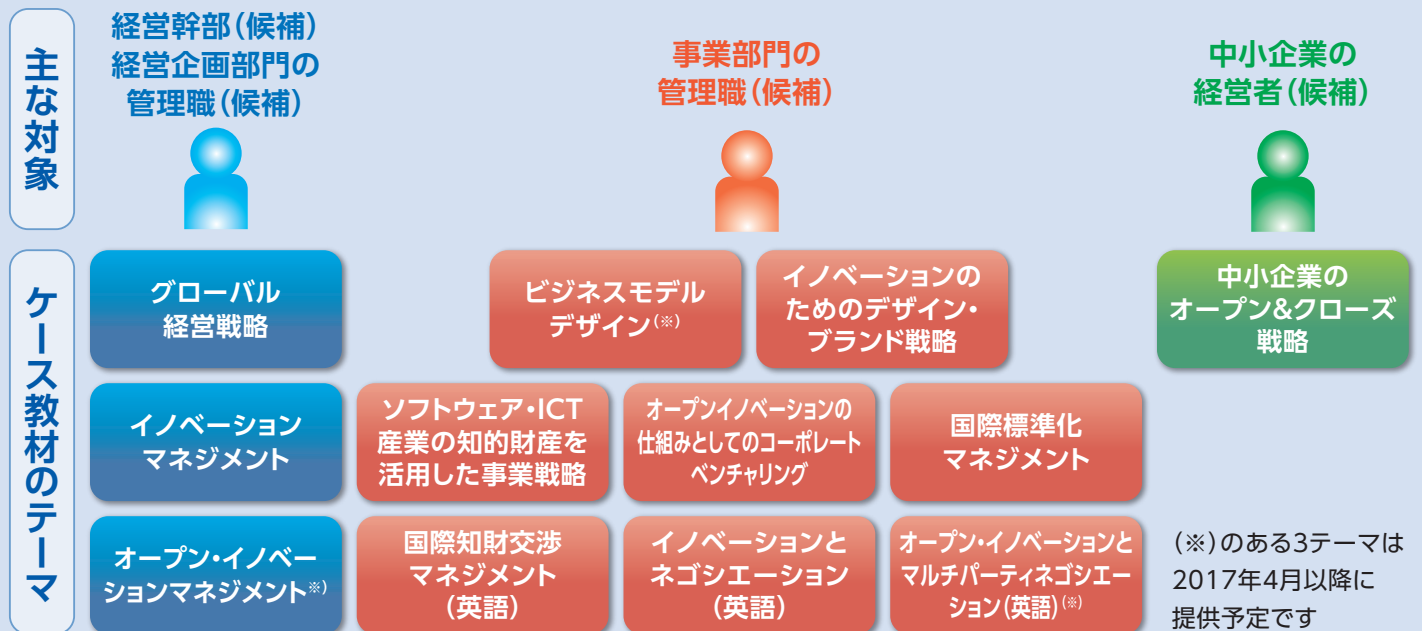
お問い合わせ

特許庁総務部企画調査課人材育成班

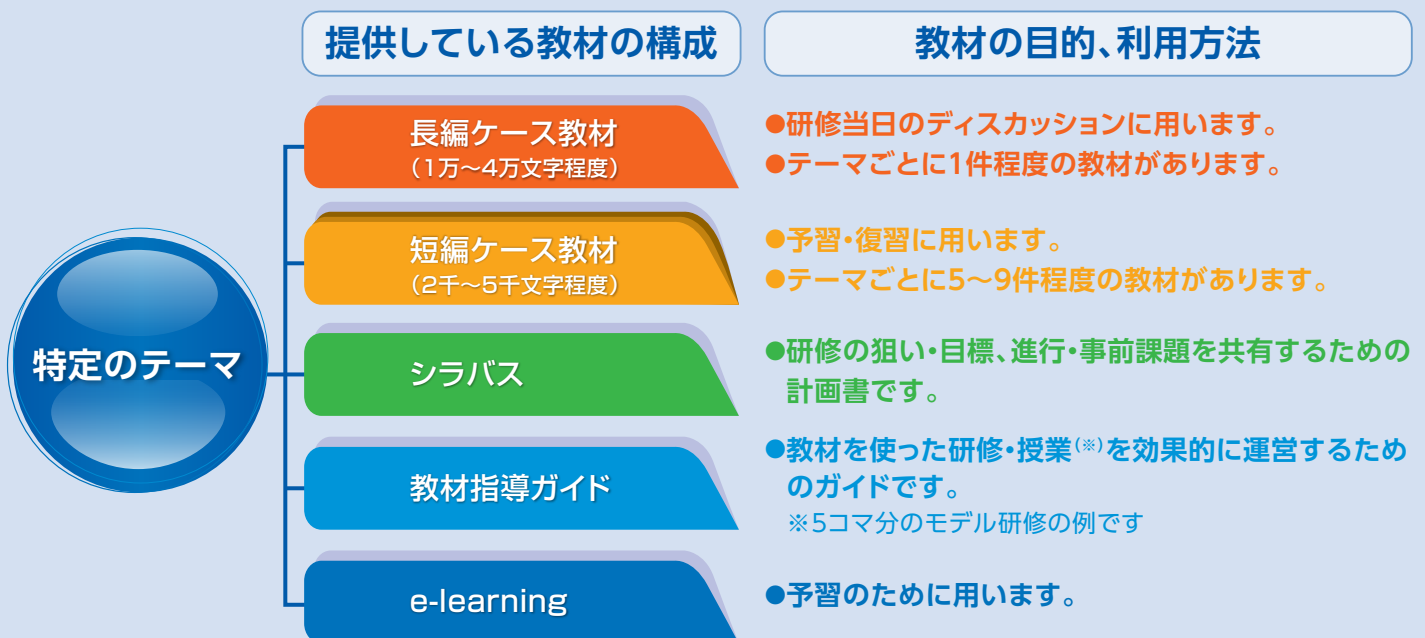
電話：03-3581-1101 内線2156



所属部門・企業規模別の対象のニーズに合わせて ケース教材のテーマを設定しました



ケース教材だけでなく、テーマごとに研修・授業を効果的に運営するための
シラバス、教材指導ガイド、e-learningも無料で提供しています



ケース教材の利用者の声

- 「ケースごとにガイドがあるので著者でなくても授業
を実施できた」
(ケース教材を授業で利用した大学教授)
- 「ケース教材が秀逸で、自社と比較して考えることで、
仕事にどう活かせるかが想定しやすかったです」
(ケース教材を利用した研修の受講者)

利用申込方法

教材の利用申込ホームページのURL

http://www.jpo.go.jp/shiryou/s_sonota/teaching_case.htm

いますぐアクセス!

特許庁 ケース教材

検索

